

# 大分県版 カーボンニュートラルの 推進について

令和7年2月14日

大分県生活環境部

# 大分県環境基本計画

## 第4次大分県環境基本計画（令和6年10月）

目指すべき  
環境の将来像

### 恵み豊かで美しく快適な環境先進県おおいた

近年、企業や人々の意識が高まり、環境への配慮が社会的価値を生む時代となる中、これからの環境政策においては、本県の恵み豊かで美しく快適な環境を「守る」のみならず、「**活かして選ばれる**」視点を持つことが大切です。

これまでの環境政策を継承しつつ、企業の環境対策、環境保全活動などに新たな社会的価値を付け、経済の発展も促していく取組をグリーンアップおおいたとして展開することにより、「環境先進県おおいた」の実現を目指していきます。

#### 環境を「守る」取組

- ✓再エネ・省エネの導入など温室効果ガスの排出削減、森林などの吸収源対策
- ✓プラスチックごみの削減(プラごみゼロ宣言)
- ✓生物多様性の保全(自然共生地域拡大)等

#### ビジネスなどに「活かす」取組

- ✓グリーン・コンビナートおおいた推進構想
- ✓ものづくり産業の循環経済への転換(産業廃棄物の発生抑制、減量化、再利用等)
- ✓エコツーリズムの推進

#### 国内外から「選ばれる」

観光誘客  
自然志向の観光客など

移住・定住・交流  
サステナブル意識の高い  
都市住民・学生・企業など

企業進出・官民投資  
社会的責任を果たしたい企業  
GXに取り組む企業など

### 脱炭素

- 地球温暖化の緩和と気候変動への適応
- 環境と経済の好循環を生み出すGXの推進

### 資源循環

- 環境への負荷を抑えた循環型社会の構築

### 環境保全

- 豊かな自然の保全と活用
- 環境を守り活かす担い手づくりの推進

## 第3次大分県環境基本計画（令和2年3月改訂版）

温室効果ガスの排出実質ゼロを目指す「2050年カーボンニュートラル宣言」

# 大分県地球温暖化対策実行計画

第5期大分県地球温暖化対策実行計画・大分県気候変動適応計画（令和5年9月）

## 大分県における地球温暖化対策の推進

### ○取組の方向性

1. 環境と経済・社会のバランスを保ちながら、県民や企業と一体となった取組推進
2. 地域資源を有効活用するとともに、地域の課題解決につながる取組推進
3. 新たな経済成長の契機となる環境対策をビジネスチャンスにつなげるための取組推進

### ○2030年度に向けた削減目標

単位：千t-CO<sub>2</sub>、%

部門	2025年度		2030年度	
	排出量等	2013年度比	排出量等	2013年度比
家庭部門	1,613	▲27	751	▲66
業務その他部門	1,632	▲28	1,111	▲51
運輸部門	2,169	▲20	1,763	▲35
産業部門	—	—	19,194	▲26
その他部門	—	—	3,447	▲26
計	—	—	26,266	▲31
吸収量	2,039	—	2,039	—
合計	—	—	24,227	▲36

○環境と経済のバランスに配慮しつつ、産業部門の目標を初めて設定

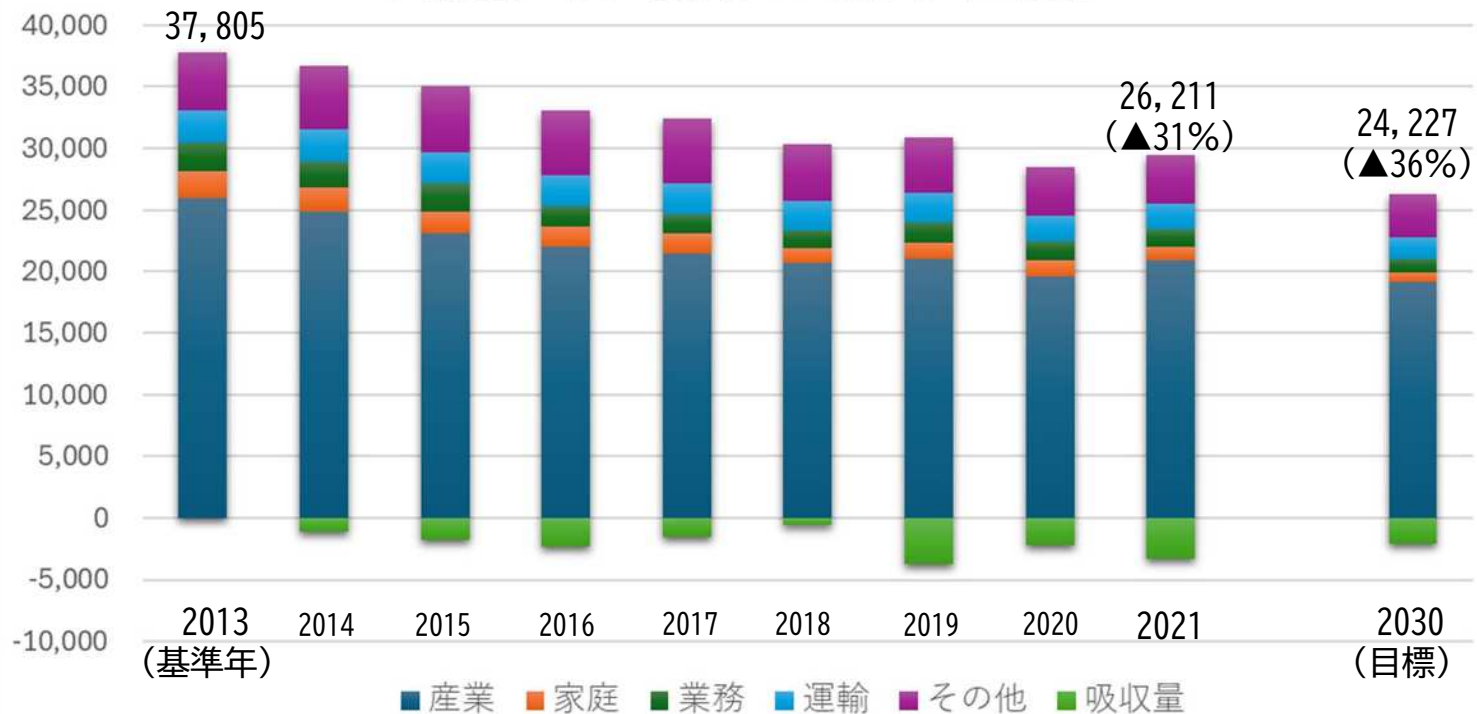
○熱中症予防、災害対策、高温耐性品種改良などの「適応策」も盛り込む

# 大分県内の温室効果ガスの排出状況と削減目標

○最新の2021年度の県内の温室効果ガス排出量は2,621万トンで2013年度比△31%。  
2030年度の削減目標は△36%であり、さらなる努力が必要。

(単位：千トン-CO2)

## 大分県 温室効果ガス排出量の推移



(単位：千トン-CO2)

	基準年	実績			目標	
	2013	2021	(シェア%)	削減率 %	2030	削減率 %
産業部門	25,938	20,962	(71)	△ 19	19,194	△ 26
家庭部門	2,210	1,076	(4)	△ 51	751	△ 66
業務部門	2,267	1,427	(5)	△ 37	1,111	△ 51
運輸部門	2,712	2,093	(7)	△ 23	1,763	△ 35
その他	4,678	3,914	(13)	△ 16	3,447	△ 26
吸収量		△ 3,262			△ 2,039	
計	37,805	26,211		△ 31	24,227	△ 36

# 県内市町村の地方公共団体実行計画の策定状況等

○地方公共団体実行計画（区域施策編）は18市町村中、12団体が策定済み。2団体が今年度内に策定予定であり、未策定団体は4団体となる見込み。

○気候変動適応計画策定済は9団体、ゼロカーボンシティ宣言済は9団体。

(R7.1月現在)

自治体名	地方公共団体実行計画				ゼロカーボン シティ宣言
	区域施策編			気候変動適応計画	
	策定年月	期間	2030年度削減目標	策定年月	
大分県	R3.3	R3-R7	2013年度比▲36%	R3.3 ※実行計画に含む（以下同様）	○
大分市	R6.9	R6-R12	大分市全体（特定事業所を除く） 2013年度比▲50%以上 特定事業所 2013年度比▲30%	R3.3	○
別府市	H31.3	R1-R12	2013年度比▲25%		○
中津市	H31.3	R1-R10	2013年度比▲57%	R6.4	○
日田市	R6.1	R6-R12	2013年度比▲50%	R6.1	○
佐伯市	R7.1	R7-R12	2013年度比▲46%	R7.1	○
臼杵市	R6.3	R6-R32	2013年度比▲46%		
津久見市					
竹田市					
豊後高田市	R6年度中予定	R7-R12	2013年度比▲46%	R6年度中予定	計画策定後宣言予定
杵築市	R5.3	R5-R12	2013年度比▲46%	R5.3	○
宇佐市	R4.5	H31-R12	2013年度比▲46%	R4.5	○
豊後大野市	R6年度中予定				
由布市	H28.3	H28-R7	2012年度比▲16%		
国東市	R6.3	R6-R12	2013年度比▲56%	R6.3	○
姫島村					
日出町	R6.12	R7-R12	2013年度比▲50%	R6.12	○
九重町					
玖珠町	R5.3	R5-R14	2013年度比▲46%	R5.3	

# グリーン・コンビナートおおいた推進構想の動向

## グリーン・コンビナートおおいた推進構想

- ◆大分コンビナートのカーボンニュートラルと持続的成長の両立に向け、水素等の供給・利活用、カーボンリサイクルなどを軸とし、大分コンビナートが2030年、2050年を見据えて向かうべき方向性を、関係者共有の構想として取りまとめたもの。
- ◆2024年1月に大分コンビナート企業協議会会員11社、大分県知事、大分市長、大分大学長をメンバーとする「グリーン・コンビナートおおいた」推進会議が策定・公表。

## 水素の受入・供給拠点化

### 国産グリーン水素の地産地消モデルの可能性検討（ENEOS）

- ・再エネが豊富な北海道と大分で検討
- ・大分では太陽光等の余剰電力で水素製造
- ・火力発電所での水素混焼発電や化学工場での利用を想定



### 水素・CO<sub>2</sub>等のインフラ整備に必要な土地確保検討（大分県）

- ・土地確保の手法を複数案調査中  
(海面の場合で数10ha~100haのポテンシャルあり)

## CO<sub>2</sub>・その他資源の回収・利活用

### CO<sub>2</sub>の分離・回収技術開発

(クラサスケミカル・日本製鉄・大分大学等)

- ・低圧・低濃度ガスから、新たな吸着材を活用してCO<sub>2</sub>を分離・回収する技術を産学連携で開発中  
(2022~2030)

### CO<sub>2</sub>貯留に向けた取組

(日本製鉄・ENEOS・クラサスケミカル等)

- ・JOGMECのCCSプロジェクト3案件に大分コンビナート関係企業が参画

### バイオマス製品事業の協業

(クラサスケミカル等)

- ・フィンランドのNeste社が製造した廃食油などからなるバイオマス原料をもとにしたエチレンやプロピレンの製造に向けた協業を開始

# おおいたグリーン事業者認証制度

- 電力や燃料の使用量、廃棄物の削減などの目標を設定し、その達成に取り組む事業者を、大分県が独自認証する制度（令和5年8月開始）。
- 大分県は、認証した事業者を環境意識の高い企業として広くPRするほか、省エネ設備や太陽光発電設備、蓄電池の導入を支援。

## 制度概要

### 脱炭素部門

### 脱プラ部門

○県内に事業所を置き、事業活動に伴い発生するCO2削減に取り組む事業者（全業種）	<b>対象事業者</b>	○県内に事業所を置き、事業活動に伴い発生するプラスチックの削減に取り組む事業者（全業種）
○電力使用量、産廃排出量に任意の項目を加えた3項目以上について削減目標を設定し、達成に向けて取り組むこと（任意項目例：燃料、水使用量、一般廃棄物排出量等） ○更新時（2年に1回）に実績を報告すること	<b>認証要件</b>	○事業活動上発生するプラの削減について目標を設定し、達成に向けて取り組むこと（目標例：①プラ代替製品の製造・開発 ②プラの再利用 ③使い捨てプラの削減） ○更新時（2年に1回）に実績を報告すること
○高効率照明等導入事業費補助金 ▶高効率照明・空調導入／補助率1/2（上限10万円） ○自家消費型太陽光発電設備等導入事業費補助金 ▶蓄電池・太陽光発電導入／蓄電池1/3、太陽光2.5万円/kW	<b>メリット</b>	○プラスチック削減事業者事業費補助金 ▶プラ代替製品の開発／補助率1/2（上限100万円） ▶プラ回収ボックス等の整備／補助率1/2（上限50万円） ▶プラ代替製品の整備／補助率1/2（上限30万円）

## 認証実績

業種	脱炭素部門	脱プラ部門
建設業	29	
産業廃棄物処理業	10	2
製造業	9	4
卸・小売業	8	10
医療・福祉	8	
運輸業	6	
飲食・宿泊業	4	4
農林水産業	2	1
その他	18	5
計	94	26



認証事業者の取組紹介は、環境政策課YouTubeをご覧ください！



環境政策課YouTube QRコード

# 自家消費型太陽光発電設備等導入支援事業

- 自家消費型の太陽光発電設備と蓄電池の導入補助事業を、環境省の地域脱炭素交付金や内閣府の地方創生臨時交付金を活用し、令和5年度から3回にわたり実施。
- これまでの総支援件数は家庭を中心に575件。太陽光発電と蓄電池をセットで導入し、電力の自給を図る家庭が増加している。
- 令和6年度12月補正予算でも約1.1億円を計上し、2月12日より公募開始予定。

## 補助実績

(令和6年11月14日時点)

	内訳	補助件数
R5当初	個人	171
	事業者	15
	計	186
R5補正	個人	162
	事業者	11
	計	173
R6当初	個人	197
	事業者	19
	計	216
合計	個人	530
	事業者	45
	計	575

太陽光と蓄電池のセット導入が圧倒的に多く、蓄電池の導入が進んでいる

## 家庭の標準的な導入イメージ



月間電力使用量	441kWh
導入太陽光発電	4.5kW
月間発電量	$4.5\text{kW} \times 24\text{h} \times 30\text{日} \times 13.7\% = 443\text{kWh}$
導入蓄電池	10kWh (1日の発電量約15kWhの2/3をためて夜に使うことが可能)

## 令和6年度12月補正予算事業

対象設備		補助率等	上限額
太陽光発電	家庭	3.5万円/kWh	200万円
	事業者	2.5万円/kWh	
蓄電池		1/3	50万円



# カーボンクレジットの創出

- 森林管理や省エネ・再エネ設備の導入による温室効果ガスの吸収量や排出削減量を認証し、カーボンクレジットとして売買する仕組みができており、代表的なものとして国が認証するJ-クレジット制度がある。
- 県ではこの制度を活用し、豊富な森林資源の適正管理による環境価値をクレジット化する取組を推進しており、本年11月には、県森林組合連合会と大分コンビナート企業協議会との間で、森林クレジットの創出と活用を図る連携協定を締結。
- 家庭の太陽光発電設備の導入による排出削減量をまとめてクレジット化する「おおいた太陽光倶楽部」の取組も平成22年から実施中。

## 森林J-クレジット創出支援事業

新たな森林クレジットの創出に向け、関心をもつ森林経営者を対象とした創出見込み量の調査や、計画書の審査やクレジットの認証に係る審査費用の補助を実施

計画審査費用：  
補助率30%（上限35万円）  
認証費用補助：  
補助率10%（上限10万円）

## 森林J-クレジットの創出・活用に係る連携協定

大分県と県森林組合連合会は、県営林等での森林クレジットの創出に取り組むとともに、大分コンビナート企業に供給し、グリーン・コンビナートおおいたの実現に貢献することを目指す

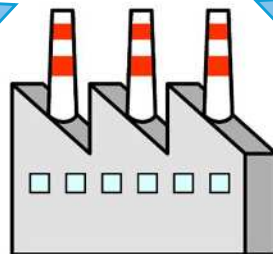
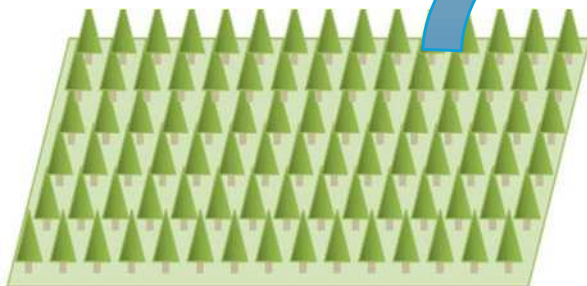
締結日：令和6年11月27日

## おおいた太陽光倶楽部

J-クレジットのプログラム型制度を活用し、家庭の太陽光導入による排出削減量を大分県がまとめてクレジット化。

設立：平成22年  
会員数：2,177人  
クレジット認証量：  
：累計16,326t-CO<sub>2</sub>

金融機関と企業版の検討も開始



# グリーンアップおおいたアクション・エコふぁみ

- 第4次大分県環境基本計画の策定を受け、令和6年10月より環境に関する新たな県民運動「グリーンアップおおいた」をスタート。日常生活で特に意識して取り組んでもらいたい事項を「グリーンアップおおいたアクション」として示し、省エネなどの呼びかけをこれまで以上に強化する方向。
- 省エネ行動などにポイントが付与する環境アプリ「エコふぁみ」への登録を促進。



## 「グリーンアップおおいたアクション」

	ステップ1	ステップ2
脱炭素	こまめな消灯などに取り組み、家電の買い換えはLEDなど省エネ型にしよう	九州エコファミリー応援アプリ「エコふぁみ」を使ってエコライフを始めよう
	宅配は確実に受け取れる配達日時と場所（コンビニ、置き配含む）を指定しよう	都合が悪くなったら、事前に宅配事業者へ変更の連絡をしよう
	健康アプリ「おおいた歩得(あるとつく)」を使って徒歩で出かけよう	自転車（シェアサイクル含む）、公共交通機関を利用しよう
資源循環	食品トレイ・ペットボトルを分別しよう	食品トレイ・ペットボトルをスーパーの回収箱に持っていく
	環境ラベルのついた商品を探してみよう	環境ラベルのついた商品を選んで買おう
	買い物前には冷蔵庫をチェックしよう	賞味期限の短いものから買って、食べよう
環境保全	ごみは持ち帰ろう	ごみ拾いなど環境保全活動に参加しよう

## ○九州エコファミリー応援アプリ「エコふぁみ」

省エネ、省資源など地球環境にやさしい活動に取り組んでポイントを獲得。ポイントが貯まると九州各地の特産品などが当たる抽選に参加できる。

（ポイントが獲得できる行動例）

- ・電気、ガス、ガソリンの使用量等の記録
- ・エコイベントへの参加
- ・エコふぁみ協賛店への来店

アプリのダウンロードはこちらから!




GET IT ON Google Play

Download on the App Store